

令和 6 年度名城大学寄附講座

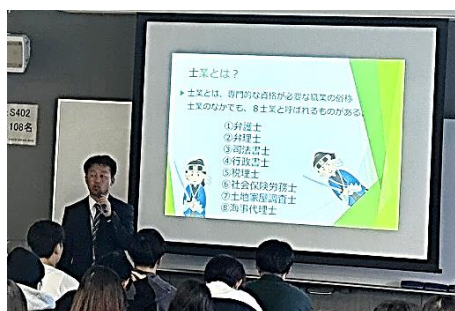
令和 6 年 4 月 10 日（水）から名城大学における寄附講座が開講されました。この寄附講座は、名城大学法学部（1 年生～4 年生）を対象に行っています。近年は受講者数が 50 名程度と減少傾向でありましたが、昨年度は 70 名程度と増加傾向で、今年度は、なんと 120 名程度の学生が受講しています。これまでの教室では入りきらず、第 2 講目からは急きょ教室を変更することとなり、とても嬉しい結果となりました。



寄附講座を受講する学生のみなさん

この寄附講座は毎週水曜日の 2 限目（10 時 50 分～12 時 20 分）に行われ、第 1 講の「ガイダンス」から始まり第 15 講まで、愛知会会員である講師の方々にご協力をいただき講義が進んでいきます。第 5 講、第 6 講は石川会会員の方々にご協力をいただき「土地に関する表示の登記」についての講義を行っていただく予定です。学生はこの講義を受講することで 2 単位が付与されます。可否は出席日数と全 15 講の後にレポートを提出してもらい決定します。

講義の最後に小テストを実施するのですが、講義への質問や感想を記入してもらう欄があります。講義への質問もありますが、よくある感想としては、「測量をしている姿を見かけるがそれが土地家屋調査士とわかった」「土地家屋調査士について初めて知り、身近な職業とわかり興味を持った」など、やはり土地家屋調査士を知る機会がなく、職業を選択する上で候補にもならない現状がよくわかります。土地家屋調査士のことを多くの方に知っていただくためにもこの寄附講座の役割の大切さを改めて感じました。



講義を担当する牧田委員長

私は平成 29 年から、これまで第 1 講、第 2 講を担当させていただいていますが、今年の学生は特に講義に興味深く聞いてくれている印象を受けました。その結果として多くの学生が小テストにあるコメント欄に質問や感想を書いてくれています。また、第 2 講の最後に測量の風景を動画で解説したところ、普段の様子がとても分かりやすく良かったとの感想をいただきました。

寄附講座の目的の一つとして、土地家屋調査士のことを知ってもらい、一人でも多くの学生に土地家屋調査士を目指していただくことがあります。そこで、土地家屋調査士をより身近に感じ、より深く知ってもらうために、夏季休暇を利用して行われる夏季仕事体験への参加を積極的にアピールして、多くの学生に夏季仕事体験に参加していただけるように活動を行っています。そのため、学生を受け入れる体制も必要となりますので、会員の皆様にはご協力をいただけますようお願い申し上げます。

この寄附講座では、講師も募集をしています。土地家屋調査士の魅力を直接学生に伝えることができます。会員の皆様が土地家屋調査士を目指したきっかけや、なぜ土地家屋調査士を職業としているのかなど、実体験を伝えていただき、一人でも多くの学生が土地家屋調査士を目指してもらえよう活動を一緒にできたらと思います。今後も会員の皆様のご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

（寄附講座運営委員会委員長 牧田 篤）